

さいぎょうやしきあと
西行屋敷跡

野田村玉川に所在する西行屋敷跡は、平安時代末期の武士・僧・歌人として知られる西行法師さいぎょうほうしが庵を結んだと伝えられる場所です。

平安時代中頃の歌人である能因法師のういんほうしがこの地を訪れ、

夕されば 夕風こして陸奥の 野田の玉川ちどりなくなり

と詠んでおり、西行法師はその足跡をたどって野田の地を訪ねたと伝えられています。

「陸奥の野田の玉川」は歌枕として有名な場所で、能因法師のほかにも多くの歌人が野田の玉川を詠んでいます。

「陸奥の野田の玉川」については、野田村の玉川と宮城県塩釜市の玉川の2ヶ所が想定されていますが、実際どちらの玉川に能因と西行が訪れたかの断定はできません。どちらを訪れていたにしても、野田村の玉川は和歌や俳句等を詠みたくなる風光明媚な場所と言えましょう。

